

2008年度(2009年3月期) 第2四半期決算説明会



2008年10月30日
大正製薬株式会社
社長 上原 明

2008年度第2四半期決算：概要



第2四半期(累計): 損益の概要

(億円)

	07年度 2Q	08年度 2Q	対前年同期増減		対予想*
売上高	1,207	1,263	+56	+5%	+23
SMG*	753	825	+72	+10%	+19
医薬事業	454	438	▲16	▲3%	+4
営業利益	191	195	+4	+2%	+45
経常利益	225	208	▲17	▲8%	+43
当期純利益	141	▲11	▲152	-	▲106
EPS(円)	47.4	▲3.6			

注: 数字は億円未満四捨五入

* SMG: セルフメディケーション事業

*5月発表の期初予想対比₂

2008年度第2四半期：売上高・利益の増減要因



(期初からの6ヶ月累計、前年同期比増減額)

<p>売上高 (+56億円)</p>	<p>セルフメディケーション事業 (+72億円) OTC薬等 +40億円(大正) ビオフェルミン +29億円</p>	<p>医薬事業(▲16億円) 大正富山医薬品 ▲31億円 ビオフェルミン +15億円</p>
<p>営業利益 (+4億円)</p>	<p>売上総利益は49億円の増加 原価率は33.6%→32.8%と改善 ＜販管費 45億円増＞(ビオフェルミン分を含む) 研究開発費 +41億円 広告宣伝費 +11億円 販促費 ▲11億円 人件費 +5億円</p>	
<p>営業外損益:持分法投資損益は前年同期の+5億円から▲19億円に 特別損益:のれん一時償却と投資有価証券評価損で134億円を特別損失計上</p>		

2008年度：連結通期業績



(億円)

	新予想	対前期増減		対期初 予想
売上高	2,520	+23	+1%	0
SMG*	1,611	+84	+6%	0
医薬事業	909	▲61	▲6%	0
営業利益	355	▲15	▲4%	+25
経常利益	390	▲29	▲7%	+15
当期純利益	105	▲145	▲58%	▲120
EPS(円)	35.5			
(参考)				
大正富山医薬品売上高	770	▲51	▲6%	0

注：数字は億円未満四捨五入

*SMG：セルフメディケーション事業

2008年度通期予想：売上高・利益の増減要因



<p>売上高 (前年比 +23億円) 期初予想から 変更なし</p>	<p>セルフメディケーション事業 (+84億円) OTC薬等 +24億円(大正) ビオフェルミン +53億円</p>	<p>医薬事業(▲61億円) 大正富山医薬品 ▲51億円 ロイヤルティ収入 ▲29億円 中間製品等 ▲12億円 ビオフェルミン +30億円</p>
<p>営業利益 (前年比 ▲15億円) 期初予想を 25億円引き上げ</p>	<p>売上総利益は前年比35億円の増加 <販管費 50億円増>(ビオフェルミン分を含む) 研究開発費 +27億円 広告宣伝費 +30億円 販促費 ▲16億円 人件費 +11億円 ビオフェルミンのれん償却費は今下期以降、年1.35億円 (一時償却を行ったため、期初計画の年7.9億円から減少)</p>	
<p>営業外損益: 持分法投資損益は▲28億円を織り込む 特別損益: 3Qに端株譲渡益18億円を計上</p>		

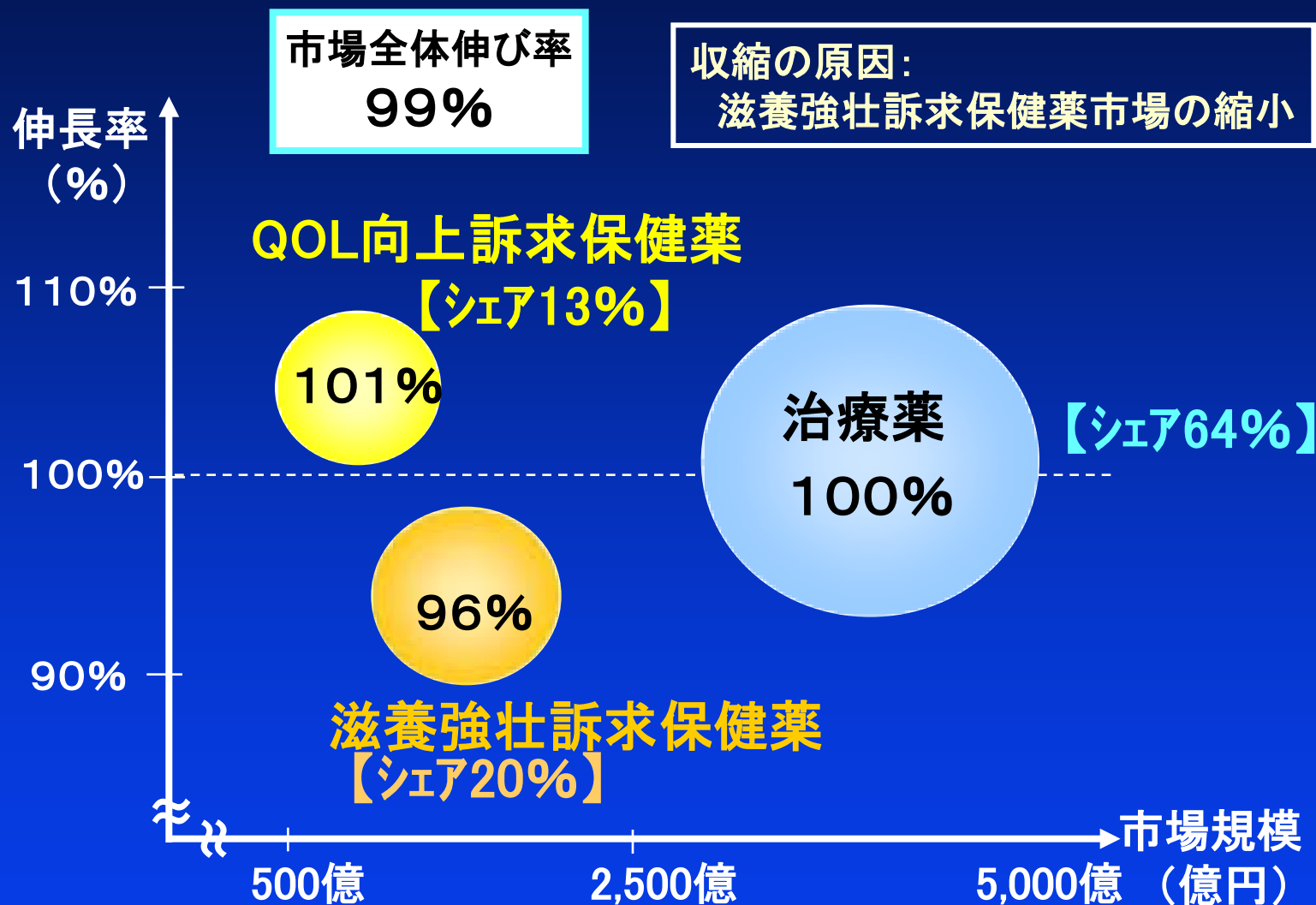
今年度4～9月の市場動向



- ・ OTC医薬品市場は前年比1%減
 - 伸びた薬効群は、鼻炎治療薬、毛髪用剤、漢方製剤など
 - 天候の影響もあって、ドリンク剤をはじめとするその他の主要薬効群はほぼ前年割れとなった
 - 第1類医薬品・新規薬効群の新製品が寄与
- ・ 医療用医薬品市場は前年比3%増
 - 当社の主力市場である抗菌薬は市場全体で7%減（経口6%減、注射8%減）

Copyright 2008 IMSジャパン(株)
IMS JPM 2008年4-9月 MAT
無断転載禁止

2008年度(上期)／2007年度(上期) セグメント別伸び率



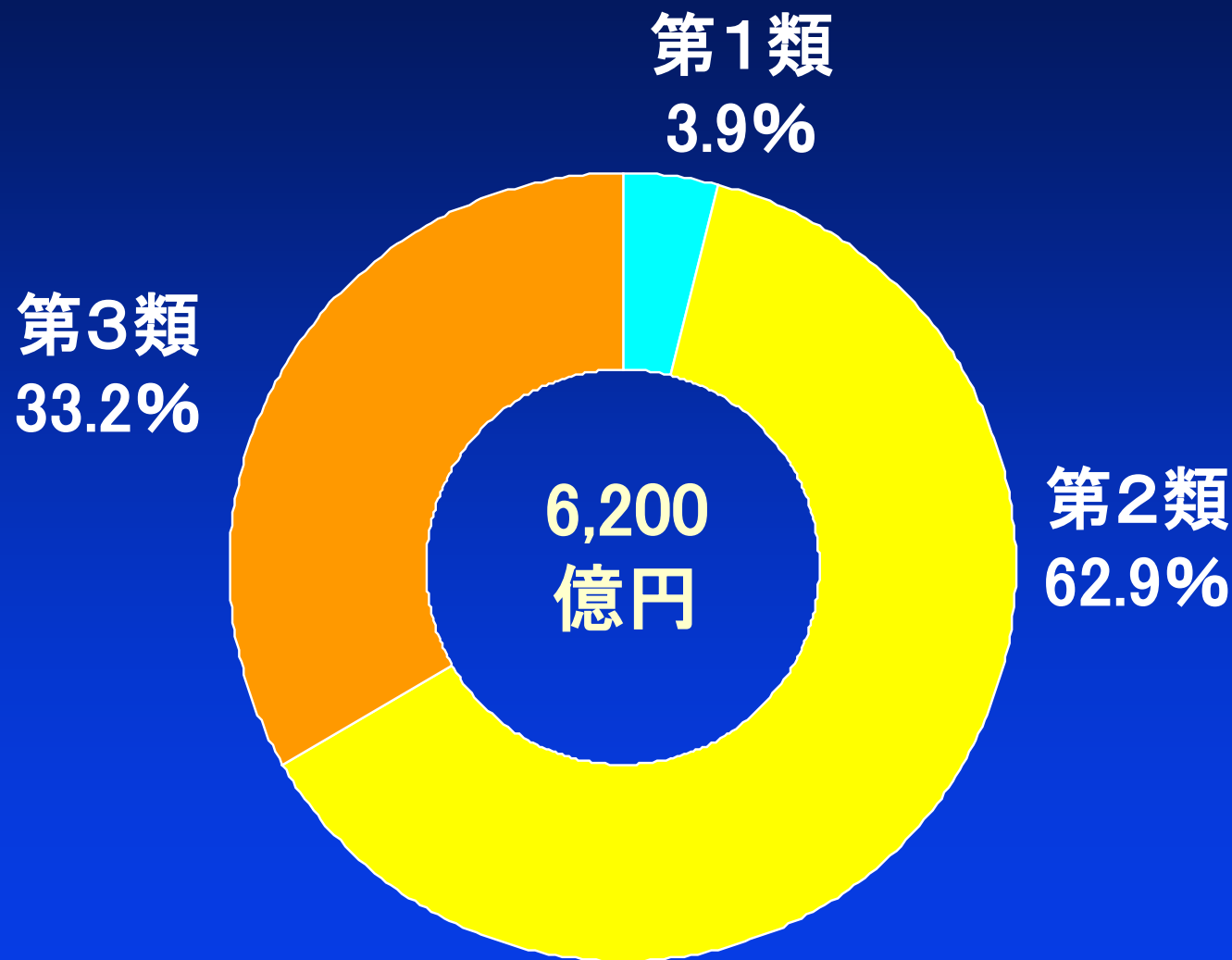
※伸び率:2007年度(上期)に対する2008年度(上期)の販売金額伸び率

※円の大きさは、市場規模の大きさを表す

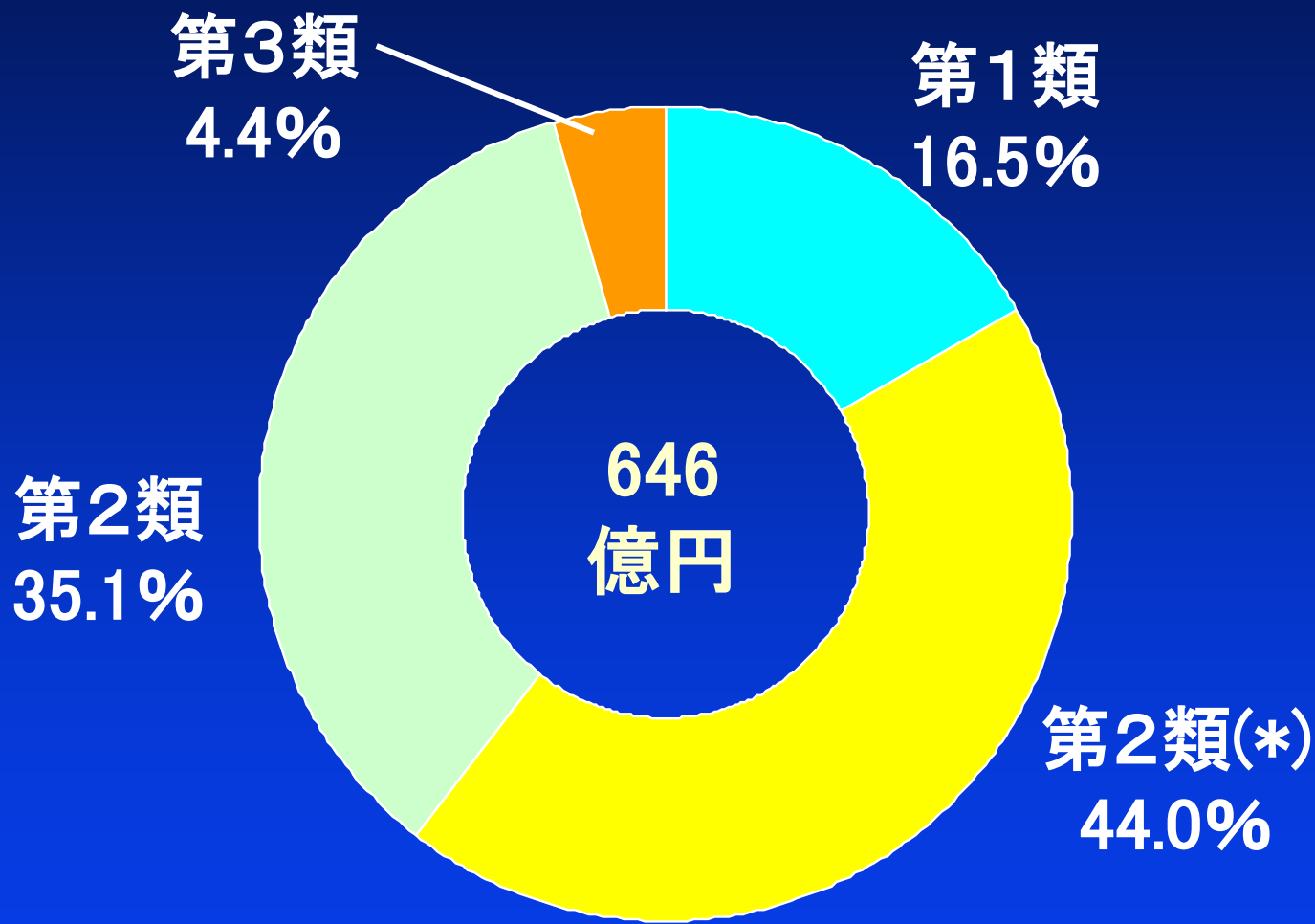
(外部調査)

OTC市場 リスク分類別市場規模(2007年)

(外部調査に基づく
当社推計,
出荷額ベース)

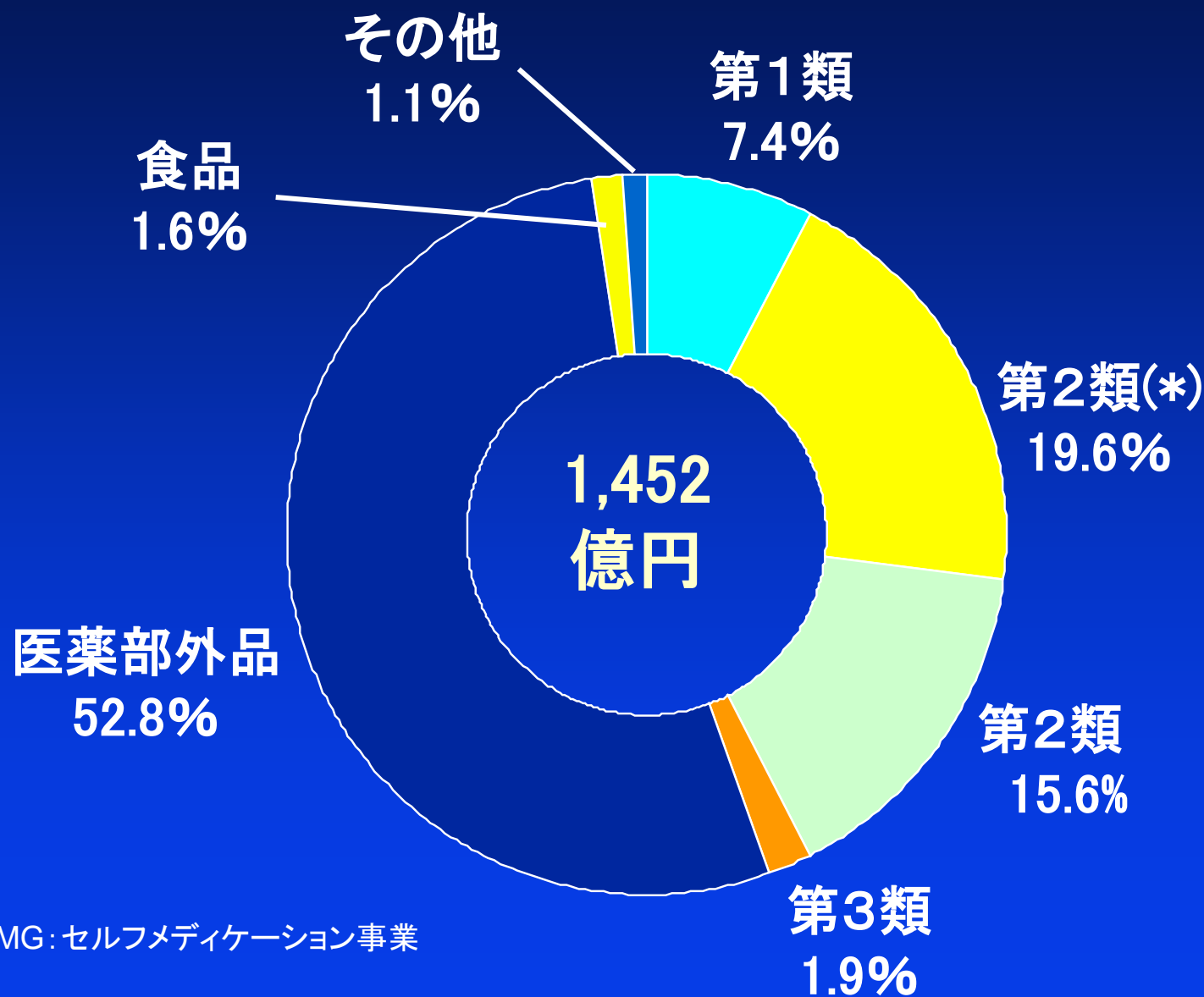


リスク分類別 SMG*医薬品売上実績(2007年度)



* SMG:セルフメディケーション事業

リスク分類別 SMG*売上実績(2007年度)



* SMG:セルフメディケーション事業

ブランドおよび主要カテゴリ別：売上高



(億円)

	2Q累計	前年比	通期（予）	修正額*
リポビタンシリーズ	424	+2	759	▲7
パブロンシリーズ	94	+15	240	+1
リアップシリーズ	58	+9	109	+3
胃腸薬シリーズ	21	+2	45	0
コーラックシリーズ	19	+2	38	+1
リビタシリーズ	13	+1	27	0
大正富山医薬品	369	▲31	770	0
ロイヤルティ	13	+4	14	0

注：数字は億円未満四捨五入

*7月発表の予想に対する修正額



第3四半期以降の動向

・ セルフメディケーション事業

新販売制度の施行(09年6月)に向けた動き

－ 当社の展開

- ・ 新制度に向けた準備と対応
- ・ 新規薬効・新規カテゴリー等に対する取り組み
 - － 第1類医薬品の拡大に向けて

・ 医薬事業

－ 当社の新たな展開

- ・ 注射用抗菌薬ゾシン(YP-18):10月発売、病院販路の強化
- ・ 経口抗菌薬ジェニナック:発売2年目での次なる展開
- ・ 研究開発:開発重点品のスピードアップ

セルフメディケーション事業：新製品



- ・ メディリート(腔カンジダ再発治療薬、抗真菌剤)は10月1日発売
- ・ シガノンCQをはじめ、最近の新製品を育成中

赤文字: 発売済みの製品

<p><第1四半期></p> <p>カフェイン180(食品)</p> <p>漢方シリーズ(テスト販売)</p> <p>など</p>	<p><第3四半期></p> <p>メディリート</p> <p>リポビタミンノンカフェ</p> <p>コレスケアキトサン青汁</p> <p>など</p>
<p><第2四半期></p> <p>シガノンCQ、アルフェネオ</p> <p>パブロン50、パブロンうがい365</p> <p>密(伊勢丹共同開発)追加アイテム</p> <p>など</p>	<p><第4四半期></p> <p>外用剤</p> <p>内服剤</p> <p>リビタシリーズ</p> <p>など</p>

医療用医薬品：新薬パイプライン(1)



(2008年10月29日現在)

	製品特長 薬効・適応症	開発形態	オリジン
承認			
クラリス錠200 (経口)	マクロライド系抗生物質 非結核性抗酸菌症(肺感染症) <適応追加>	アボット ジャパン 共同	大正製薬
フェーズ3			
CT-081* (経口)	活性型ビタミンD誘導体 骨粗鬆症	中外製薬共同	中外製薬
フェーズ2/3			
CT-064 (注射)	ビスフォスフォネート系骨吸収抑制剤 骨粗鬆症	中外製薬共同	ロシュ

*CT-081: 中外製薬における開発コードはED-71

医療用医薬品：新薬パイプライン(2)



(2008年10月29日現在)

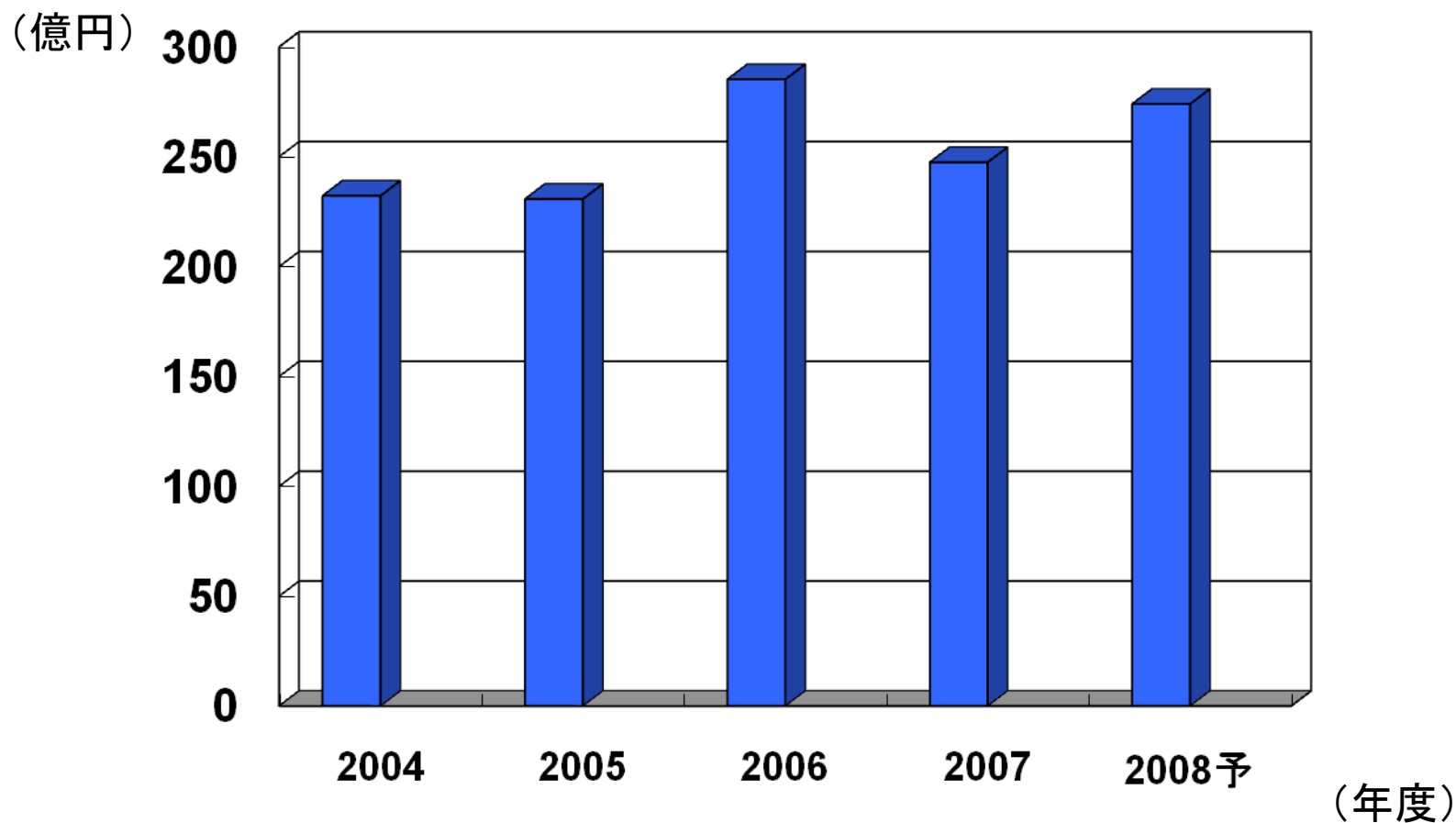
	製品特長 薬効・適応症	開発形態	オリジン
フェーズ2			
NT-702 (経口)	閉塞性動脈硬化症、腰部脊柱管狭窄症に伴う間歇性跛行	日産化学共同	日産化学
TT-063 (外用)	変形性関節症、肩関節周囲炎、筋肉痛等	トクホン共同	トクホン
CT-064 (経口)	ビスフォスフォネート系骨吸収抑制剤 骨粗鬆症	中外製薬共同	ロシュ
NT-702 (経口)	気管支喘息	日産化学共同	日産化学
TS-022 (外用)	アトピー性皮膚炎に伴う掻痒症	自社	大正製薬
パルクス (注射)	腰部脊柱管狭窄症に伴う間歇性跛行 <適応追加>	自社	大正製薬／ 田辺三菱製薬

研究開発費の動向

(含むセルフメディケーション事業)



- ・ 2008年度計画は期初見通しを引き上げ(248億円→274億円)



提携関連について



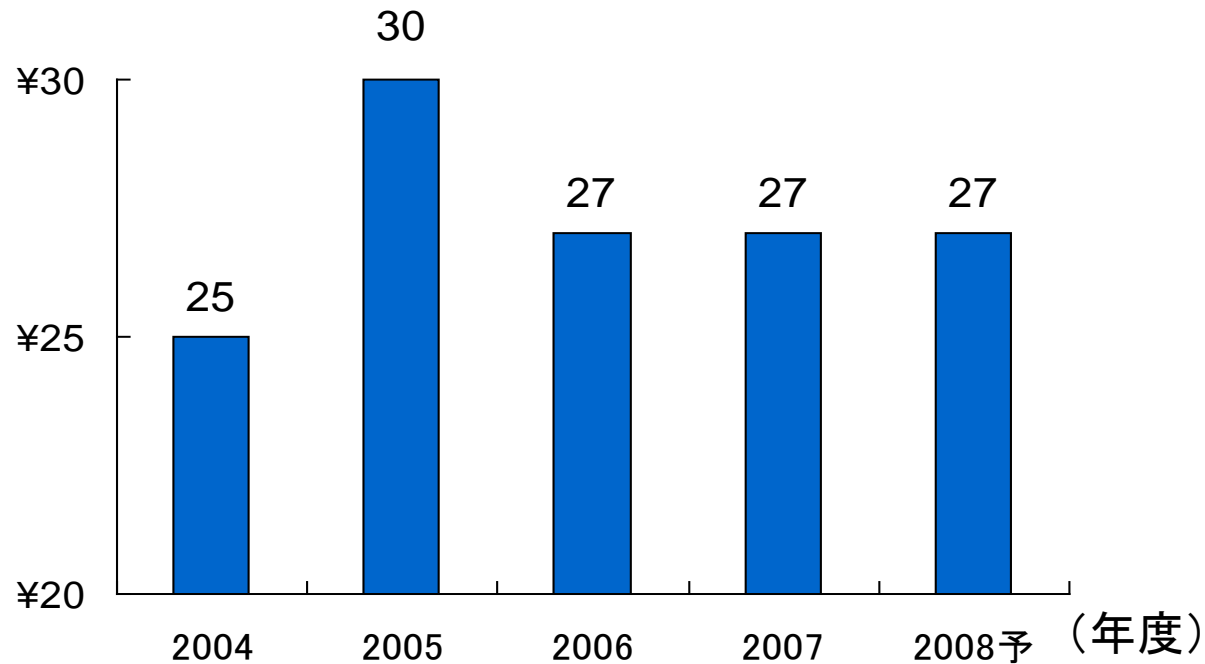
- ・ 方針等に変更ない
- ・ ビオフェルミン製薬
 - 役員を2名派遣
 - 実務レベルで協議を行っている
- ・ 富士フィルム、富山化学との3社間提携
 - 当社及び富士フィルムの完全支配化が完了
(10月24日発表)

株主還元



・ 配当

- 2007年度より中間配当を実施、今年度も1株当たり12円の間配当を行う予定。
- 配当性向のメド 30% (単体、特別損益除く)
ただし、30%を超える場合でも、最低ラインとして27円/株を維持する方針



1株あたり配当金の推移

中期連結業績目標



- 2012年度業績目標に向かって挑戦
(2006年11月発表)
 - 2012年度売上高 2,900億円
 - ・ セルフメディケーション事業 1,800億円
 - ・ 医薬事業 1,100億円
 - 2012年度経常利益率 15%前後